

領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	成人看護学方法論Ⅲ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	草場 友美 嬉野医療センター 看護師 土井 千佳 嬉野医療センター 看護師 岩谷 香寿美 嬉野医療センター 看護師 溝口 未久 嬉野医療センター 看護師 南川 栄子 嬉野医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 小森 康代 嬉野医療センター 緩和ケア認定看護師 劔持 葉子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師14年				
科目目標： 1. 急性期にある身体侵襲の大きな治療・処置を受ける成人への看護方法の実際が理解できる 2. 終末期にある成人と家族への看護方法の実際が理解できる					
授業概要： 急性期・終末期における看護の実際について学ぶ。 急性期にある対象の看護については、手術を受ける対象のとらえ方と肺がん、大腸がん、乳がん、食道がん、胃がんに対する手術前後を通して看護の実際を学ぶ。 終末期にある対象の看護については、事例を通して、健康問題によっては健康回復が見込めない場合や、病気の進行をくいとめることができず、病気とともに生きる状態にある成人の苦痛を緩和し、ありのままの自分を受容しながらQOLが保証できるような看護を学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. 急性期(周手術期)における看護の実際 1) 手術を受ける患者の看護 (1) 手術前の看護 (2) 手術後の看護	講義	草場 友美		
4～5	1. 急性期(周手術期)における看護の実際 1) 手術を受ける患者の看護 (1) 手術中の看護	講義	土井 千佳		
6～7	2) 術後看護の実際 (1) 肺がんの手術(開胸術)を受ける患者の看護 (2) 乳がんの手術を受ける患者の看護	講義	岩谷 香寿美		
8～9	(3) 食道がんの手術を受ける患者の看護 (4) 大腸がんの手術(開腹術)を受ける患者の看護 (5) 胃がんの手術を受ける患者の看護	講義	溝口 未久		
10～11	2. 術後創傷の管理(創傷看護) 1) 創傷の種類、原因、発生機序 2) 創傷治癒過程 3) 創傷管理	講義	南川 栄子		
12～13	3. 終末期にある成人の看護の実際 1) 身体的苦痛の緩和に対する援助 2) 心理的苦痛の緩和に対する援助 3) 社会的苦痛の緩和に対する援助	講義	劔持 葉子		
14～15	3. 終末期にある成人の看護の実際 4) スピリチュアルな特徴	講義	小森 康代		

	試験		
テキスト			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</li> <li>4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院</li> </ol>			
参考文献			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院</li> <li>4. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</li> </ol>			
評価方法			
筆記試験（別紙評価計画参照）			

領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	2年	開講時期	後期
科目	成人看護学方法論Ⅳ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	今村 果奈代 嬉野医療センター がん専門看護師 渡邊 依里 長崎医療センター 看護師 森永 美咲 嬉野医療センター 看護師 原田 彩 嬉野医療センター 看護師 楠本 春菜 嬉野医療センター 看護師 河上 ひとみ 嬉野医療センター 集中ケア認定看護師				
科目目標： 1. がん患者看護の基本的な考え方と看護について理解できる 2. 疾病による機能障害の特徴を理解し、機能障害に応じた看護方法が理解できる 3. クリティカルな状態にあり、救命救急治療を必要とする患者の看護について理解できる					
授業概要： がん患者の看護について基本的な考え方と治療に伴う看護、全人的苦痛に対する看護について学ぶ。また、疾病による機能障害の特徴について学ぶ。具体的には、血液・造血機能障害、感覚機能障害、脳・神経機能障害、循環機能障害で手術を受ける対象、クリティカルな状態にある対象の看護について学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. がん患者の看護 1) がんの病態と特殊性 2) がん医療と治療の特殊性 3) がん看護における看護師の役割 4) がん患者の特徴 5) がん治療に伴う看護 6) がん患者のリハビリテーション 7) がん患者の看護の実際	講義	今村 果奈代		
4～5	2. 血液・造血機能障害がある対象の看護 造血幹細胞移植をうける患者の看護	講義	渡邊 依里		
6～7	3. 感覚機能障害がある対象の看護 1) 症状に対する看護 2) 検査、診療時の看護 3) 治療・処置時の看護 4) 慢性中耳炎で鼓室形成術を受ける患者の看護 5) 白内障治療時の看護	講義	森永 美咲		
8～10	4. 脳・神経機能障害がある対象の看護 1) 脳梗塞患者の看護 2) 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術を受ける患者の看護 3) パーキンソン病患者の看護	講義	原田 彩		
11～12	5. 循環機能障害で手術を受ける対象の看護 バイパス術、弁置換術を受ける患者の看護	講義	楠本 春菜		
13～15	6. クリティカルな状態にある対象の看護 1) 救急時の看護 (BLS 演習・止血法) 2) ICU・CCU の看護 3) 家族への看護 4) 熱傷患者の看護 5) 急性中毒患者の看護	講義・演習	河上 ひとみ		
	試験				

テキスト

1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院
3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院
6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
7. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
8. 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院

評価方法：

筆記試験（別紙評価計画参照）

領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	2年	開講時期	後期												
科目	成人看護学看護過程演習	単位(時間)	1単位(30時間)														
講師名 所属	池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師18年																
<p>科目目標：</p> <p>1. 成人期にある対象の特徴をふまえ、健康問題に対する看護の方法を導くことができる</p> <p>2. 周手術期の生命維持、治療処置別の看護技術を身につけることができる</p>																	
<p>授業概要：</p> <p>看護過程展開においては、手術による生命の危機的状況にある対象の事例について展開する。急性期においては、生命の危機的状況をもたらす麻酔や既往歴、生活歴、術後合併症を予測し、予防するための看護について考えることができるようにする。また、形態や機能の変化が身体や生活に与える影響についても考えることができるようにする。</p> <p>周手術期の生命維持、治療処置別の技術演習については、手術後の患者を想定し、手術後の全身状態の観察について教授する。また、膀胱留置カテーテルの管理やドレーンの管理、気管内吸引の技術について学ぶ。</p>																	
<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>講義形式</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～7</td> <td>           1. 急性期にある対象の看護過程            1) 手術による生命の危機的状況              (1) 麻酔の種類と影響              (2) 既往歴、生活習慣と疾患、手術への影響            2) 手術からの回復過程と看護            3) 事例からの情報収集            4) アセスメント            5) 看護診断            6) 目標設定及び計画         </td> <td>講義・演習</td> <td>池ヶ谷知美</td> </tr> <tr> <td>8～15</td> <td>           2. 周手術期の生命維持にかかわる技術            1) 生命維持に関わる技術              (1) 手術直後の観察、管理(演習)                ①意識レベルの把握                ②呼吸器合併症予防のための観察、管理                ③循環器合併症予防のための観察、管理                ④苦痛の緩和(疼痛の観察)            2) 生体機能管理、治療処置時の援助              (1) 輸液ポンプ、シリンジポンプを用いた点滴静脈内注射の輸液管理(実技)              (2) ドレーンの管理                閉鎖式(胸腔ドレーン含む)、開放式              (3) Aライン測定              (4) 膀胱留置カテーテル管理(実技)              (5) 気管内吸引(実技)         </td> <td>講義・演習</td> <td>池ヶ谷知美</td> </tr> </tbody> </table>						回数	講義内容	講義形式	担当講師	1～7	1. 急性期にある対象の看護過程 1) 手術による生命の危機的状況 (1) 麻酔の種類と影響 (2) 既往歴、生活習慣と疾患、手術への影響 2) 手術からの回復過程と看護 3) 事例からの情報収集 4) アセスメント 5) 看護診断 6) 目標設定及び計画	講義・演習	池ヶ谷知美	8～15	2. 周手術期の生命維持にかかわる技術 1) 生命維持に関わる技術 (1) 手術直後の観察、管理(演習) ①意識レベルの把握 ②呼吸器合併症予防のための観察、管理 ③循環器合併症予防のための観察、管理 ④苦痛の緩和(疼痛の観察) 2) 生体機能管理、治療処置時の援助 (1) 輸液ポンプ、シリンジポンプを用いた点滴静脈内注射の輸液管理(実技) (2) ドレーンの管理 閉鎖式(胸腔ドレーン含む)、開放式 (3) Aライン測定 (4) 膀胱留置カテーテル管理(実技) (5) 気管内吸引(実技)	講義・演習	池ヶ谷知美
回数	講義内容	講義形式	担当講師														
1～7	1. 急性期にある対象の看護過程 1) 手術による生命の危機的状況 (1) 麻酔の種類と影響 (2) 既往歴、生活習慣と疾患、手術への影響 2) 手術からの回復過程と看護 3) 事例からの情報収集 4) アセスメント 5) 看護診断 6) 目標設定及び計画	講義・演習	池ヶ谷知美														
8～15	2. 周手術期の生命維持にかかわる技術 1) 生命維持に関わる技術 (1) 手術直後の観察、管理(演習) ①意識レベルの把握 ②呼吸器合併症予防のための観察、管理 ③循環器合併症予防のための観察、管理 ④苦痛の緩和(疼痛の観察) 2) 生体機能管理、治療処置時の援助 (1) 輸液ポンプ、シリンジポンプを用いた点滴静脈内注射の輸液管理(実技) (2) ドレーンの管理 閉鎖式(胸腔ドレーン含む)、開放式 (3) Aライン測定 (4) 膀胱留置カテーテル管理(実技) (5) 気管内吸引(実技)	講義・演習	池ヶ谷知美														
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p> <p>3. NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院</p> <p>4. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>																	
<p>参考文献</p> <p>1. これなら使える看護診断 医学書院</p>																	

2. ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院
3. 写真でわかる臨床看護技術② インターメディカ

評価方法

筆記試験、レポート課題（別紙評価計画参照）

領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	2年	開講時期	後期										
科目	成人看護学実習Ⅰ	単位(時間)	2単位(90時間)												
講師名	大坪 香織														
所属	嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師19年														
<p>実習目的・目標：</p> <p>成人看護学実習Ⅰでは、成人期にある対象を総合的に理解し健康の段階や障害の状態に応じて看護を実践できる能力を養う。</p> <p>慢性期は、健康状態が比較的安定しているが経過が長い、あるいは完全な治癒が望めない状況にあり、病とともに生活を営んでいくことが必要となる時期である。患者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、病気とともに生きることを支え、障害とともに生きていくためにセルフケア能力を育成することを旨とする必要がある。教育支援、自立へ向けてセルフマネジメントを促す支援、社会生活の拡大を促す支援をおこない、患者・家族が病気や治療によってもたらされるさまざまな問題に対処し、日常生活や人間関係を再編成しながら病気とともに質の高い生活ができるように援助することが必要である。患者・家族を取りまく多職種の役割や連携、継続看護の実際や社会資源の活用を知り、社会活動の拡大と充実をはかっていく。</p> <p>成人は自律した存在であり、日々の生活から人生の選択においてあらゆる場面でさまざまな意思決定をしている。健康障害の診断を受け治療を選択・実施するときも、意思を尊重し納得して選択・決定できるよう援助することが重要である。また医療における選択だけでなく、どう生きるかということをも意思決定できるように支えることは看護の大きな役割である。医療者は患者との協働関係に基づき、合併症予防・治療法などの知識やそれに必要な技術、症状マネジメントやセルフモニタリングの方法に関する知識や技術を習得できるよう学習を支援する。自信ややる気をもって養生法や治療法を実行していけるよう継続的にセルフマネジメントを促していくことを実践する。</p>															
<p>授業概要：</p> <p>慢性期は集中した治療やケアは概ね必要なく日常の生活を継続しながら治療やケアを受ける状態である。疾患の特徴により多くの喪失を体験している対象が病気と共に生きる過程において、生活や役割の変更等に対する自己の反応や問題に気づき、病気と向き合いどのように折り合いをつけていけばいいのかを模索することを支援する。また、対象が病気と折り合いをつけて生きていくために、自らが意志決定したやり方で病気や生活をマネジメントできるセルフケア能力を獲得していくことを支援していくことを学ぶ。</p>															
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 慢性期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。</td> <td>(1) 身体的・精神的・社会的特徴の理解</td> </tr> <tr> <td>2) 患者・家族が病気とともに質の高い生活ができるように援助できる。</td> <td>(1) 患者の健康障害に伴う制約や症状の程度を観察し、ADL 拡大に向けた日常生活への援助の実際 (2) 受け持ち患者に予測される合併症、二次障害および悪化予防についての援助の実際 (3) セルフマネジメント確立のための患者教育の実際(実施・評価)</td> </tr> <tr> <td>3) 社会活動の拡大を促す援助ができる。</td> <td>(1) 患者を取り巻く多職種の役割・連携・継続看護の実際 (2) 社会資源の活用の実際</td> </tr> <tr> <td>4) 成人期にある対象が自律した存在であることをふまえ、人間関係を築くことができる。</td> <td>(1) 患者の自律を促す理論の活用、人間関係構築</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は、実習要項参照</p>						実習目標	実習内容	1) 慢性期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。	(1) 身体的・精神的・社会的特徴の理解	2) 患者・家族が病気とともに質の高い生活ができるように援助できる。	(1) 患者の健康障害に伴う制約や症状の程度を観察し、ADL 拡大に向けた日常生活への援助の実際 (2) 受け持ち患者に予測される合併症、二次障害および悪化予防についての援助の実際 (3) セルフマネジメント確立のための患者教育の実際(実施・評価)	3) 社会活動の拡大を促す援助ができる。	(1) 患者を取り巻く多職種の役割・連携・継続看護の実際 (2) 社会資源の活用の実際	4) 成人期にある対象が自律した存在であることをふまえ、人間関係を築くことができる。	(1) 患者の自律を促す理論の活用、人間関係構築
実習目標	実習内容														
1) 慢性期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。	(1) 身体的・精神的・社会的特徴の理解														
2) 患者・家族が病気とともに質の高い生活ができるように援助できる。	(1) 患者の健康障害に伴う制約や症状の程度を観察し、ADL 拡大に向けた日常生活への援助の実際 (2) 受け持ち患者に予測される合併症、二次障害および悪化予防についての援助の実際 (3) セルフマネジメント確立のための患者教育の実際(実施・評価)														
3) 社会活動の拡大を促す援助ができる。	(1) 患者を取り巻く多職種の役割・連携・継続看護の実際 (2) 社会資源の活用の実際														
4) 成人期にある対象が自律した存在であることをふまえ、人間関係を築くことができる。	(1) 患者の自律を促す理論の活用、人間関係構築														

<p>2. 実習施設</p> <p>独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター</p>
<p>履修条件</p> <p>履修規程第3条3</p> <p>二 専門分野の単位認定ができていない学科科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。</p> <p>四 基礎看護学看護過程実習において単位認定されなければ専門分野Ⅱの各領域実習を履修できない。</p>
<p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学概論 医学書院</li> <li>4. 臨床看護学叢書 2 経過別看護 メヂカルフレンド社</li> <li>5. 中範囲理論入門—事例を通してやさしく学ぶ 日総研</li> <li>6. 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社</li> <li>7. パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅱ 慢性期・回復期 照林社</li> </ol>
<p>評価方法</p> <p>実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する（実習要項・実習要領・評価基準参照）</p>



領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	成人看護学実習Ⅱ	単位(時間)	2単位(90時間)		
講師名 所属	大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師19年				

実習目的・目標：

成人看護学実習は、成人期にある対象を総合的に理解し、健康の段階や障害の状態に応じて看護を実践できる能力を養うことを目的とする。したがって、経過別および、健康問題に伴うセルフケア能力の変化に即した看護で実習を成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅲと構成している。

成人看護学実習Ⅱでは、終末期にある成人期の対象を全人的な視点から理解し、残された人生をその人らしく過ごせるような援助を学ぶことを目的とする。

終末期とは、疾病に対しいかなる治療を行っても死が避けられない状態で、原疾患の治療よりむしろ症状の緩和が優先される時期を意味している。終末期にある対象は、様々な身体的苦痛と共に、心理的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛を抱く。これらの苦痛は互いに影響しあっており、全人的苦痛として捉えることができる。終末期にある患者は、様々な苦痛を抱えQOLが損なわれやすい。この実習では、対象の全人的苦痛を様々な側面から判断し、苦痛を軽減すること、対象が家族や周囲の人とのつながりを通して、自己の生きてきた価値、存在価値を深めていけるようにすることでQOLの維持・向上が図れるよう援助することを学ぶ。

終末期にある患者の家族は、様々な苦悩を体験する看護の対象である。家族は患者をケアする一方、ケアを受ける存在となる。患者・家族を支えるためには、患者・家族を中心としたチームアプローチが必要である。この実習では、医師や看護師をはじめ、多種多様な職種がそれぞれの知を持ち寄り、患者・家族もチームのメンバーとなり、ともに方向性を模索しながら患者・家族を支えていくことを学ぶ。

対象の状況に応じ、今後の生活を考慮した社会資源の活用を学ぶ。

終末期にある患者の看護には、看護者自身の死生観も影響することから、学生自身に死や生について考える機会を与えると共に、他者の死生観を知り、自己の死生観を深める機会とする。(詳細は実習要項参照)

授業概要：

成人看護学実習Ⅱは、呼吸器内科・総合診療科病棟、消化器内科病棟、緩和ケア病棟で実習を行う。悪性腫瘍、慢性呼吸不全、肝硬変等により様々な症状があり、苦痛を抱えている患者の身体的苦痛、心理的・社会的・霊的苦痛から全人的苦痛を捉える。患者の苦痛を緩和し、QOLの維持・向上に向けて看護を実践する。緩和ケアチームをはじめ多職種でのチームアプローチを学ぶ。

授業計画

1. 実習目標および実習内容

実習目標	実習内容
1) 終末期にある対象を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解できる。	(1) 終末期にある対象の身体的特徴 (2) 終末期にある対象の心理的・社会的・霊的特徴
2) 終末期にある対象のQOL維持・向上に向けた看護の実践ができる。	(1) 対象のQOLに関する内容のアセスメント及び援助 (2) 共感的・受容的態度、相手を尊重した言葉遣い (3) 対象の人生や価値観を尊重した関わり (4) 対象がその人らしく人生を全うできるような援助 (5) 対象や家族の自己決定を支える態度 (6) 身体的苦痛の緩和 (7) 合併症や二次的障害を予防する援助



領域	専門分野Ⅱ 成人看護学	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	成人看護学実習Ⅲ	単位（時間）	2単位（90時間）		
講師名 所属	大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師19年				

実習目的・目標：

成人看護学実習は、成人期にある対象を総合的に理解し、健康の段階や障害の状態に応じて看護を実践できる能力を養うことを目的とする。したがって、経過別および、健康問題に伴うセルフケア能力の変化に即した看護で実習を成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅲと構成している。

成人看護学実習Ⅲでは、急性期・回復期にある対象を統合的に理解し、科学的根拠に基づき、生命維持、合併症の予防を図り、治癒促進のための看護を実践できる能力を養うことを目的とする。

代表的な急性期の状況としては、①手術などの侵襲的治療を予定して受ける状況、②救命救急治療を必要とする状況、③慢性疾患の増悪がある。

急性期にある対象の身体的特徴としては、生体への侵襲はストレスとなり、生体は刺激に対してホメオスタシスを維持するためにサイトカインを産生し、神経内分泌反応が起こる。また、生命を維持するための治療・処置が行われることにより、手術室やICU・CCUなどの特殊な環境に置かれ、対象は身体的な苦痛や不快感を体験する。精神的特徴としては非日常的な出来事に対する不安やストレスにより心理的にも危機に陥る可能性をもつ。社会的特徴としては社会の中心的役割をもつ対象が急性期の状況に陥ることは社会的役割の変更、経済的問題、家族の問題等を引き起こす可能性をもつ。また、急性期にある対象を支える家族も対象と同様に不安を感じている。

急性期の看護として、患者の生命の安全と安寧を維持しながら、異常の早期発見、合併症予防、患者・家族のストレス軽減をはかること、そして患者・家族の意思決定を支援することである。これは、医療チームの目標でもある。急性期の医療チームは、医師が中心であることが適している場合が多く、医師の専門性に依拠した共同体としてのチーム医療である。

この実習では、急性期にある対象・家族の特徴を理解し、急性期の医療チームの連携や看護を学ぶ。（詳細は実習要項参照）

授業概要：

成人看護学実習Ⅲは、外科（呼吸器、消化器、乳腺）病棟、循環器科・心臓血管外科病棟、手術室で実習を行う。呼吸器・消化器・乳腺・循環器系に障害があり手術を受ける対象、または外傷や事故、中毒、急性疾患などの予期せぬ危機が生じた対象の、生体反応、回復過程を理解し、異常の早期発見、合併症予防、対象を支える家族の看護を学ぶ。手術室見学を通して、麻酔や手術が身体面に及ぼす影響と術中の看護、病棟との継続看護を学ぶ。

授業計画

1. 実習目標および実習内容

実習目標	実習内容
1) 急性期・回復期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴が理解できる。	(1) 身体の侵襲による生体反応 (2) 全身状態評価 (3) 疾患・治療・処置に対する不安 (4) 疾患・治療・処置についてのインフォームドコンセント内容と患者・家族の認識 (5) 家族の支援体制 (6) 社会的役割と役割遂行困難の有無 (7) 手術や救命救急治療を受ける環境が及ぼす心理的影響 (8) 家族に与える影響
2) 急性期から回復に向けた援助ができる。	(1) 救命救急治療、手術を受ける患者に起こりうる症状・合併症の予測

	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 全身状態管理・援助の実際</li> <li>(3) 苦痛緩和</li> <li>(4) 精神的苦痛の緩和</li> <li>(5) 合併症予防</li> </ul>
3) 急性期における身体の機能・形態変化が日常生活に及ぼす影響を把握し、日常生活活動の自立やQOLの向上を目指した援助ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 日常生活行動のアセスメント</li> <li>(2) 日常生活の拡大を促進する援助</li> </ul>
4) 手術見学を通して、行われている治療・看護がどのように継続されているのか継続看護の必要性が理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 手術室の環境</li> <li>(2) 麻酔導入時の看護</li> <li>(3) 手術中の全身管理</li> <li>(4) 麻酔覚醒時、手術室からの退室時の管理</li> <li>(5) 手術における継続看護</li> </ul>
5) 看護の実践を通して自己の看護観を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 急性期から回復期にある対象の看護における看護師の役割</li> <li>(2) 行なった看護の意味、考察</li> </ul>
<p>詳細は、実習要項参照</p> <p>2. 実習施設</p> <p>独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター</p>	
<p>履修条件</p> <p>履修規程第3条3</p> <p>二 専門分野の単位認定ができていない学科科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。</p> <p>四 基礎看護学看護過程実習において単位認定されなければ専門分野Ⅱの各領域実習を履修できない。</p>	
<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 中範囲理論入門—事例を通してやさしく学ぶ 日総研</li> <li>2. 家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会</li> <li>3. 看護過程に沿った対症看護 学研秀潤社</li> <li>4. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</li> </ul>	
<p>評価方法：</p> <p>実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)</p>	